

名大、圧勝で連覇を達成！

2009年3月21日 日本学生オリエンテーリング選手権リレー（神奈川県南足柄市）

名古屋大学がインカレリレーで2連覇を達成！ そのメンバーを直撃インタビュー

インカレ男子リレー競技結果

1	名古屋大学	2:20:21
	(松井健哉 / 寺村大 / 崎田孝文)	
2	新潟大学	2:33:29
3	東北大学	2:36:41
4	千葉大学	2:37:56
5	東京大学	2:48:45
6	東京工業大学	2:48:59

名古屋大学が圧勝

3月21日に行われたインカレの男子選手権リレーで、名古屋大学は東京大学、早稲田大学に続く3校目（4回目）の2連覇を果たした。

1走から1度も首位を譲らず、2位との差は史上最大となる13分8秒という圧勝だった。前日のミドルではライバルの東北大学にレベルの高さを見せ付けられ、当日は主力の片岡裕太郎（当時3年、以下同じ）をケガで欠き、その戦いは決して楽ではないはずだった。

直前のオーダー変更で1走に起用され、名古屋大学の窮地を救った松井健哉（2年）、堅実なレースで優勝を決定的なものにした寺村大（4年）、2年連続でゴールテープを切ったエース崎田孝文（4年）、そしてチームを支えた小林知彦（4年）。新しい生活に向けてあわただしい日々を送る中、名古屋市内で5人に話を聞いた。

先行逃げ切りのオーダー

—— まず、皆さん、2連覇おめでとうございます。今回のリレーは優勝を目指して取り組んできたと思いますが。

寺村「ありがとうございます。去年優勝しているのも、もちろん連覇は目指すべき目標でした。」

—— 当初の予定では1走から片岡、寺村、崎田。補欠が松井と小林。鈴木陽介コーチは「自分たちがそれぞれの役割に集中できる走順を考えた」、樽見典明コーチは「優勝を狙うためにあえて冒険を冒すことを考える必要はないほど、自信のある戦力」と言っていました。

片岡「優勝を争うと見ていた東北大の戦

力から、名大にとって理想の展開は先行逃げ切り。1走はトップかそれに近い位置でつなぎたかったです。僕自身は1走にこだわっていたわけではなかったけど、ずっと目標としていた先輩と一緒にリレーを走ることに決まったことが嬉しかったです。」

崎田「1走片岡が1位でつなぎ、寺村が1位を保って、僕が逃げ切るという展開を想定していました。片岡が1位でなくても2走か3走でトップに立てる可能性は十分にあると持っていました。」

寺村「優勝を決める3走はやっぱり崎田。納得できる走順です。」

松井「僕もちろんメンバー入りが目標でしたが、納得できる選考でした。」



左から崎田、寺村、松井

片岡の負傷

前日のミドルディスタンスで名大は片岡が3位、崎田が6位。その一方で寺村は予選をぎりぎり3秒差で通り、Aファイナルでは14位と精彩を欠く。松井に至っては2秒差で予選落ち。対する東北大学は、太田貴大（4年）が1位、日下雅広（4年）が2位、千々岩瞳（4年）が4位と磐石の体勢。さらに、片岡はAファイナルの序盤で転倒、腹部を強打。なんとかレースを完走したものの腹部の違和感がひどく、救急車で病院へ。CT検査の結果、腎臓に傷がついていることがわかりそのまま入院となった（大事に至らず経過も良好で、3日後に退院）。

—— 片岡がミドルで負傷。リレーを走れないことになりました。

片岡「ゴールした後、違和感があったのですが、みんなの応援をしているうちにそれが増ってきて、普通の

状態じゃないことがわかって、リレーは無理だと。救護所で相談したら救急車も呼ぶことになって、なんか情けなくてみんなに黙って会場から離れちゃった。病院でも明日は本当に走れないのだから医者さんに聞いたりしていました。」

松井「片岡さんの入賞が決まって胴上げしようと思ったら、後でね、って言って歩いて行っちゃって。」

小林「なんか姿を見ないな、表彰式にもいないし、でも青山（由希菜、相山女学園大4年）もドーピング検査の影響で表彰式に出られなかったし、あれ？っていう程度でした。」

崎田「その後、なんか救急車で運ばれたぞ、っていうことになって。宿に帰ってから正式に、1走が松井に代わると、鈴木コーチから発表されました。」

—— 鈴木コーチは「かなり動揺したけど、悟られないようにしなくては、と思った」と言っていました。

松井「僕も、どうしようって感じでかなり動揺しました。ミドルの成績も悪くて、思わず、本当に僕でいいんですかって、聞き返しました。」

寺村「片岡と一緒に走るのをすごく楽しみにしていたので残念でしたが、松井が走っても十分に優勝は狙えると思っていたので、メンバーが代わったからといって動揺しませんでした。名大も相山も逆に結果が高まりました。」

崎田「片岡と一緒に走りたかった。一瞬、連覇は厳しいのでは、と考えたけど、片岡のためにどうしても優勝したいと思うようになりました。」

理想的な展開へ

いよいよリレーが始まると、急遽1走に起用された松井はまったく危ない走り序盤から先頭争いを展開、パブリック区間で既に先頭に立ち、結局2位に3分半の差をつける独走、47分9秒で帰ってきた。これは全体でも、崎田、千々岩に次ぐ3番目の好タイム。

2走の寺村は我慢のレース。ミスをしながらも崩れずに粘るレースは寺村の真骨頂、50分10秒でまとめ2位との差を7分半として、優勝を決定的なものにした。崎田はほぼノーミスで、43分1秒という圧倒的なタイムでまとめた。



ウィニングラン (O-Photo より)。寺村は尊敬する樽見コーチのウェアを着ていた。

—— 連覇を目指す重圧があったと思いますか？

松井 「スタート前は開き直って落ち着いていました。ポジティブな性格ですから。みんなに声をかけてもらって嬉しかったです。素直に、選手権っていいなと思っていました。ゴールした時もあっさりした感じでした。1位だったとは気づかなかったです。仕事をやり遂げた充実感がありましたね。この時点でもう負ける気がしなかったです。」

寺村 「松井が中間をトップで通過したときには、まじすか、って思いました。俺はレース中、後ろから目下くんが来ていると思えば不安でした。何度かミスしたときに抜かれたかもとか考えていました。そのたびに自分の役割は地味にまとめて崎田につなげるだけだと思い、気持ちを入れ替えていました。」

崎田 「寺村は本当に地味なタイムだったね。松井が太田くんに15分差をつけたところでいけると思ったけど、太田くんでも大きなロスをするコースは油断できないと思いました。遅くてもいいから手続きを慎重に行おうと。それからミスして追いつかれても最後に突き離せるように脚を残しておこうと考えていました。レース中は片岡に優勝杯を見せたいという気持ちと、絶対に手続きを怠らないようにという気持ちが交錯していました。」

—— 携帯電話使用禁止で絶対安静の片岡には、三宅文彦らOBによって優勝の知らせが伝えられました。

片岡 「入院中は暇で、どうしようもないこ

とを考えていました。自分のせいでのみんなの想いを壊してしまったのではないかと。優勝の知らせを聞いたときには本当に幸せでした。やっぱり名大は強いんだという誇らしい気持ちも。その後、みんなが書いてくれた寄せ書きのノートも届いて、また1年みんなと頑張ろうかという気持ちになりました。」

名大躍進の主役たち

名大は3年前に1年生で1走に抜擢された小林がパブリックコントロールを1位で通過する活躍を見せ20年ぶりの入賞を果たす(オーダーは小林、吉岡、樽見)と、翌年には1走崎田が2位で中継、2走寺村が粘り、名大初の連続入賞を成し遂げた(3走は吉岡)。

昨年は1走寺村で上位に付け、2走小林が先頭に立ち、3走崎田が抜け出して22年ぶりの優勝。3人がお互いに高めあいながら歩んだ道のりは、そのまま名古屋大学の新しい歴史となった。もちろん3人を強力にサポートしてきた南部三王、小林正朋の同期の存在も大きい。

小林は4月から東京農工大学の院進学、みちの会に入会。寺村は化学メーカーに就職、配属先が決まってから地元地域クラブに入ることを考えている。崎田は名大院に進学、3連覇を目指す後輩の指導に当たりながら、自身も世界選手権などの代表を視野に入れて活動することになる。

—— 3人は別々の進路になりますね。

小林 「3人で対決したいのはもちろんだけど、またいつかりレーを組んで走りたいです。そのために僕もレベルアップしないと。」

もう一人、名大の躍進を語る上で欠かせない人がいる。「学生の視点に近い位置でインカレを目指し充実した日々を送れた」という鈴木コーチも、当初から区切りとしていた4年間で“卒業”することになった。京都大学出身で、チーム全体をコーチするのは初めてであったが、学生たち、特に3人からの信頼は厚かった。

3連覇に向けて

—— 次回は男子選手権で初の3連覇に挑むことになります。

松井 「今は、日常の生活に戻っていますが、記事を見たりメダルを見たり、周りに声をかけられるたびに喜びを感じています。頼りになる先輩がたくさんいますし、同期も後輩も元気があるので、3連覇は簡単で

はないけれども名大ならできると思っています。」

表彰式終了後、名古屋大学・椋山女学園大学の全体ミーティングで森広斗コーチが「俺たちは強い」と叫んでいた。その言葉どおり、部員も増え、オリエンテーリングに真摯に取り組むことに誇りを持ち、見本となるべき先輩とそれに憧れる後輩がたくさんいるこの部なら、史上初の3連覇も難しいことではないだろう。

* 松井健哉(まついけんや)

滋賀県出身、工学部。2008年ジュニア世界選手権代表。

「素晴らしいインカレを提供してくださった運営者の方々、ありがとうございました。本当に楽しかったです。コーチやOBOGの方々、愛知県の社会人の方々にも感謝しています。これからも応援をお願いします。」

* 寺村大(てらむらだい)

愛知県出身、法学部。リレーは3年連続で代表。

「個人戦ではいつも冴えなかったのにリレーで3年間貢献できたことに自分でも驚いています。仲間が支えてくれないと力が発揮できないのかもしれないですね。支えてくれた方々、仲間には最大限感謝しなければと思っています。」

* 崎田孝文(さきだたかふみ)

石川県出身、工学部。2006年ジュニア世界選手権、2008年ユニバシアード代表。

「4年間インカレを目指してきて、辛いこともありましたが、それを上回る感動と教訓を得ることができました。一緒に切磋琢磨し楽しむことができる仲間たち、支えてくれた人たちに感謝しています。」

(安齋秀樹)